

令和7年度

試験名:個別学力検査等(後期日程)

【人間学群 障害科学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
「論述」問題	1. 問題文の選定・出題理由 本論述問題では、障害科学に関連する日本語の文章を読ませ、内容に関連した質問に文章で解答させ、受験生の応答性、論理性などを評価するものとした。 今回は、「政府広報オンラインの Web ページに掲載されているのを知っていますか?街の中のバリアフリーと「心のバリアフリー」」を題材として取り上げ、一部改変して用いた。バリアフリーは物理的障壁の除去という意味だけではなく、意識上のバリアの除去といった心のバリアフリーも含む意味を有している。本文では、設備面のバリアフリーはもちろんのこと、無関心や誤解、何気なく行っている行動や発言などの意識上のバリアの除去(心のバリアフリー)の必要性が説明されている。社会には多様な人々がいるにもかかわらず、障害のない人に合わせた社会がつくられている。障害のある人や高齢者等の多様な人々がいることを考え、社会を変えていくためには何が必要かについて投げかけている。 問1では、この文章にある「物理的バリア」「意識上のバリア」にはどのようなものがあるか、受験生が知っているバリアのうちから、1つずつを取り上げ、説明させることで、質問への応答性を評価することとした。問2では、「障害がある人や高齢者など、多様な人がいることを考え、その人たちも参加しやすく変えていくために、あなたにはどのような貢献ができるか」と受験生に問い、受験生の考えを説明させることで、論理的に思考し、発言する能力を論理性として評価することとした。 2. 採点要領 (1) 試験問題は60分。 (2) 2問の問題ならびに標準的な解答は以下のとおり。 問1.「物理的バリア」と「意識上のバリア」にはどのようなものがあるか、この文章以外の具体例を、それぞれ1つずつ取り上げ、説明しなさい。 エレベーターのボタンの位置が高すぎて、車いすの方が押せない場合、高いボタンの位置は、車いすの方がエレベーターを利用する際の物理的バリアになる。精神障害のある人は何をするかわからないから怖いといった偏見、変な目で見たり、かわいそうな存在と決めつけたりすることは、精神障害のある人への無理解・偏見といった意識上のバリア(心のバリア)になる。 (171字)※200字程度想定 問2.「これまでは障害のない人に合わせた社会がつくられており、障害のある人にとっては生活しにくい環境がある」と書かれています。障害がある人や高齢者など、多様な人がいることを考え、その人たちも参加しやすい社会にしていくために、あなたはどのような貢献ができると考えますか。あなたの考えを述べなさい。 障害のある人や高齢者等にとって生活しにくい環境があることは、世の中の多くの人たちは分かっているにしても、具体的にどのような環境が生活しにくいのか、何気なくそして不自由なく暮らしている我々はわからないことも多いと考える。そのため私は、障害のある人たちにとって物理的バリア、心のバリアとはどのようなものがあるか、専門的に学び、学んだことをより多くの人たちに知らせたいと考え、障害科学を志したいと考えている。問題文にあった「無関心・誤解・何気なく行っている行動や発言」は意識上のバリアとなり、障害のある人にとってサポートを得にくい人的環境が生み出されることになり、だれもが暮らしやすい社会を作るための妨げになると考える。例えば、身の回りに困っている人がいたら、どのようなことに困っているのかを積極的に訊くことから、バリアを知り、どのような工夫ができるかを考えることで、無関心・誤解のない心のバリアフリーを実践していきたい。専門的に学んだことや、自分自身が実践していきたく経験から、まずは身近にいる人たち

	に何がバリアで、どのようなバリアフリーが工夫できるのか伝えていきたい。障害があつて、様々なバリアを感じている人たちが世の中にはいて、実は我々がその人たちにとってのバリアを作り出している可能性があることを自覚できるようにするため、ボランティア活動、子どもを中心にした教育、理解啓発等のイベントに積極的に参加して、少しでも社会全体の理解を深めていくことが重要だと考える。(628字) ※600字程度想定
--	--